

# 会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

## 感動する演奏とは

札幌医科大学医師会  
函館五稜郭病院

寺井 琴美

『芸能人格付けチェック』という番組をご存じだろうか。芸能人が一流品を見極める問題に挑戦し、正解数に応じて独自のランク付けを行うという、正月の定番番組だ。数年前の格付けチェックで、プロの吹奏楽の演奏を当てる問題が出た。間違いの選択肢は全国の高校生吹奏楽コンクールの優勝校のもの。全国で一番上手い高校生たちの演奏といえども、プロに勝るとは思わじ。だが面白いことに、番組内での結果は高校生たちの演奏を正解、これは言い換えると「より良い演奏」と選んだ人が多かった。テレビの中だけではない。Twitterで早速リアルタイムの投稿を検索してみると、かなりの割合で皆ハズレてしまっている。そういう私はというと、この問題は製作者側の意図を汲み取ったうえで正解している。思わずニヤッとしてしまう仕組みが問題の裏には隠されていた。さすがは日本一となる高校だけあって、音程や細かいパッセージに狂いが無いのはプロと同じだが、高校生の演奏は抑揚のつけ方、楽器の鳴らし方、音楽の作り方すべてが全力投球なのだ。一音一音、魂を込めるように、自分のこれまでの想いをぶつけるように、そんな一球入魂ならぬ一曲入魂！な演奏である。それに比べて、プロの演奏はいい意味で肩の力が抜けている。予定調和にはいかないのが本番だ。練習回数も学生のように多くない。お互いその場の空気を読み合いながら、柔軟に、2時間程度の演奏会でクオリティを保ちながらバテずに乗り切る。単純にどちらが上手いか、という話ではないのはおわかりいただけるかと思うが、さて、では良い演奏だと思ったのはどちらかと思われたとき、プロの整然とした演奏よりも情熱的な高校生の演奏をより良いと思う人が多いというのが、

今回の問題のひっかけポイントだったのではないだろうか。

前置きが長くなったが、私も大学時代にこのような学生団体の虜になったのである。『北日本医科学学生オーケストラ』通称北オケは、年1回、関東以北の医療系学生を中心にエントリーしたメンバーがその年の開催都市に集まり、1週間の練習合宿の最終日に演奏会を行うという学生オーケストラだ。運動部の東医体や北医体のようなものをイメージしてもらえればわかりやすいかもしれない。見ず知らず同士のアマチュア学生がたった1週間だと思うかもしれないが、この演奏が、もうとてつもなく「アツい」のである。7日前に初めましてのメンバーと合奏会場で音を鳴らし、アマチュアだからと容赦はしない厳しい指導の下、限られた時間の中で必死に試行錯誤し、共に練習を重ね、日に日に音楽が形作られていく。100人近い参加者が、同じ目標に向かい、同じ釜の飯を食べ、時に笑い時に涙し時に飲みすぎて具合が悪くなり（笑）、そして迎えた本番では、一期一会のメンバーでの最初で最後の本番に、みな気持ちを高ぶらせ、思いを込めて臨むのである。たとえばプロのように完璧な演奏ではなくとも、若さと瑞々しさにあふれた力強いサウンドは、まさに青春濃縮還元！といったところだ。

そんな『北オケ』が、この度北海道に帰ってくる。3年前、北海道で開催される予定だった北オケは、コロナ禍による初の緊急事態宣言の発出により開催1週間前というところで急遽中止となった。そこから2回の無念の中止を経て、それでも北オケを繋ごうとする学生たちの懸命な努力の末、2022年、ついに北オケは再開の波に乗った。去年、今年ともに再開された北オケの本番の演奏を聴きに行ったが、これがまた、今までの北オケの演奏にプラスアルファで、音楽を大勢で奏でられる喜びのようなものも上乘せされており、聴き手の胸を強く打つ。そうした中での満を持しての北海道開催、第32回北日本医科学学生オーケストラは、「2024年3月17日（日）札幌コンサートホールkitara大ホール夜公演」の予定なので、ぜひともお時間のある方は会場に足を運び、胸熱くなる一夜を堪能してほしい。

